

IV-100

コミュニティ道路整備後の住区内道路の評価

広島大学大学院 学生員 柿田慎二
 広島大学 正会員 杉恵頼寧
 広島大学 正会員 藤原章正

1. はじめに

現在の住区内道路は侵入する通過交通によって騒音や振動が生み出され、住区内の安全性や快適性が脅かされている。このような問題に対処するためコミュニティ道路が全国で600ヶ所以上整備されている。広島市にも、現在図1に示すように、歩道拡幅、クランク、ボラード、イメージハンプを中心とした4路線の整備がなされている。

本研究は広島市に整備されている4地区（皆実、舟入、草津、白鳥）のコミュニティ道路に対し、アンケート調査を行い、コミュニティ道路の評価とともに将来の住区内道路の整備方向を検討する。

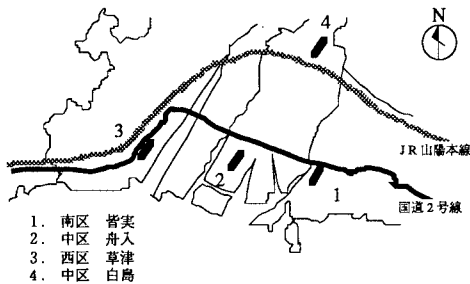


図1 広島市のコミュニティ道路

2. 調査概要

(1) 調査票の作成

調査票はコミュニティ道路が何であるのかを知ってもらうために対象道路の位置・定義などを簡単に示した表紙から始まり、1. 対象道路の通行状況の質問項目を含んだ個人属性、2. コミュニティ道路の事後評価に関する質問、3. 住区内道路全体についての評価に関する質問と大きく3つに分かれている。項目2、3での質問の基本的概念は交通静穏化（Traffic Calming）を中心とし、歩行者を通行する車から守る安全性、歩行者の通行がしやすい快適性、地区の環境を向上させる美観性という3つの柱で構成している。

(2) 調査の実施

コミュニティ道路の存在する4つの住区ブロックに住んでいる人を対象に調査した。調査票は1世帯につ

き1部で、各路線250部、総計1000部の配布予定で行なった。回収率は約90%で白票を除いた有効回答率は総配布枚数に対して85%とまずまずの結果であった。

3. 集計結果

(1) コミュニティ道路の事後評価

これは5段階で評価された回答を図2上部に示すような点数で重み付け平均し集計している。図2からも明らかにように整備後は全体的に正の評価がなされている。9の照明、10のカラーブロック、12の植栽などの美観性の向上に関するデバイスの評価が高く、1の車道の屈折による速度の低下、3の通行量の減少などの安全性向上に関する評価が低いことがわかる。このように住民は安全性よりも美観性のように目に見える整備効果をより高く評価する傾向があり、これは住民の道路に対する意識を意味していると言える。

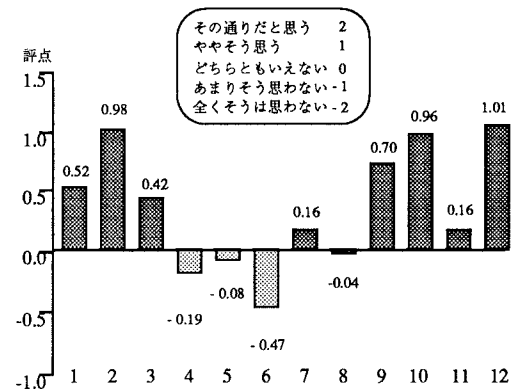


図2 コミュニティ道路の事後評価

(2) 住区別特性

被験者の特性を住区別に表2に示す。白鳥地区は他の路線と比較して被験者に男性が40.1%と少なく、65歳以上の高齢者の割合も少ない。また、コミュニティ

道路の整備後に居住し始めたという被験者の数は70.1%と最も多く、若い世代が住む地区と考えられる。コミュニティ道路認知度（同道路の存在を知っていた割合）は皆実が45.6%、白島が49.2%と低い。

表2 被験者の住区別特徴

	男性割合	高齢層割合	整備後居住割合	コミュニティ道路認知度
皆実	52.7%	17.4%	46.3%	45.6%
舟入	49.1	18.6	54.9	66.7
草津	43.9	15.3	62.6	61.9
白島	40.1	10.5	70.1	49.2
全体	46.3	15.4	58.5	54.9

(3)住区内道路の現状評価

図3は住区内道路の現状評価（コミュニティ道路を除く）を(1)と同様に5段階で質問した結果である。賛成意見の高かったものは前半の6つの質問全てである。(1)と同じく照明、騒音・振動などの美観性の向上などは70%を超えている。これらの意見は現状評価と理解するよりも住区内道路に対する住民の要望と捉えることができる。

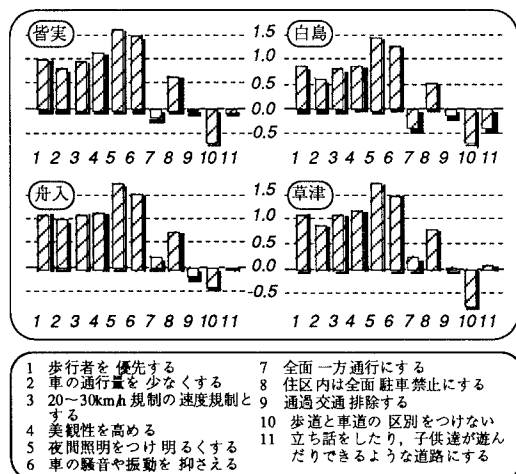


図3 住区内道路の現状評価

(4)住区内道路の総合満足度

白島地区は他の地区と違い住民の住区内道路に対する

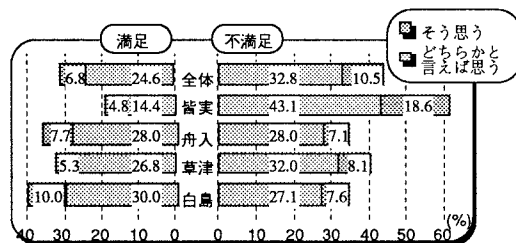


図4 住区内道路の総合満足度

る満足度が高い。また、皆実地区は道路が狭いことなどから住民の60%以上が不満足であることを示した。

(5)住区内道路の危険度評価

7割以上の住民が自分達の住んでいる地区で危険を感じると回答した。その内訳は常に危険を感じる人が2割弱、多少なりとも危険を感じるといった人が5割であった。地区別に見ると白島は特に危険を感じない人が24.7%もあり、4路線中では最も住民が道路を安全と感じている路線と考えられる。

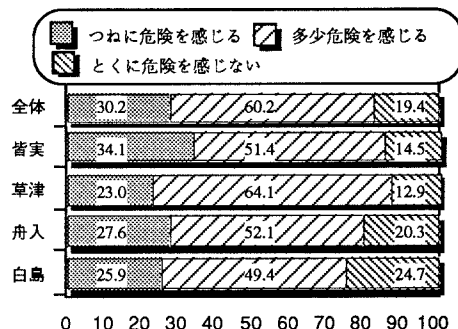


図5 住区内道路の危険度評価

(6)コミュニティ道路化への要望度評価

中立の立場を除くと自宅前道路のコミュニティ道路化に対し、白島以外の路線はコミュニティ道路化への意向が高いことが伺える。原因として図3からもわかるように白島地区は他の地区よりも現存するコミュニティ道路に対する評価が悪いことが大きく影響しているものと考えられる。

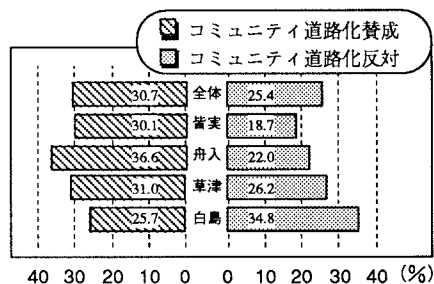


図6 コミュニティ道路化への要望度評価

4. まとめ

本研究より、住区内道路は美観性を中心とした安全な道路であることが望ましいことがわかった。また、白島地区のコミュニティ道路化への反対が強いのは、被験者の地区特性と住区内道路の総合満足度の高さ、その住区の危険度の低さが原因として挙げられる。